

令和7年度明日香村文化協会総会開かれる

令和7年5月25日（日）多くの来賓の出席のもと明日香村文化協会総会が中央公民館で行われました。来賓あいさつで、森川裕一村長は、「世界遺産登録へ向けてイコモス調査が9月にあることに触れながら、世界遺産登録は、あくまで手段であって明日香村民が経済的にも文化的にどのように発展させるかが大切である」と強調されました。村が元気になり村民として誇りを持ってもらう意味でもブックレット『小市岡に眠る女帝』は、既刊の3冊を含め文化力を発信する上で寄与するところが大きいと述べられ、今後とも文化協会と一緒に取り組みたいと結ばれました。なお、提案された議案はすべてが承認されました。



総会終了後、明日香村国民健康保険診療所の医師である武田以知郎先生から『地域で“生きる、人と暮らしを支えるケア”』と題して記念講演が行われました。先生がテーマとされている「生と死を支える地域医療、介護」にかかわるお話で、私達の大きな課題でもある“人生の最期、をどう迎えるかについて、どこで、だれと、どのように過ごしたいかを家族で話し合える機会 ACP（≒人生会議）を進めていることが紹介されました。明日香村では、“最期、を自宅で迎えたい思いがあるが家族に負担をかけたくない”と思っている人が多く、自宅で“最期、を迎えた人の割合は11.6%にすぎないと聞き、現実のきびしさについて考えさせられました。

先生の活動は、映画“明日香に生きる、を通して多くの人に感動を与えました。学生時代の経験と活動、人柄が背景になって現在があることを感じました。また、こうした実績が、日本医師会の第12回赤ひげ大賞の授賞に結びついています。

